

## ●スマートグリッドってなんだ？

近頃、電力関連のニュースの中で「スマートグリッド」という言葉を聞くことがあります。スマートグリッドとは、簡単に言うと電力と通信それぞれのインフラを融合させた次世代のエネルギー供給システムのことで、ITや先端技術を活用したものです。発電した電力とそれを使う家庭や企業を通信ネットワークでつなぐことで、電力需要と供給バランスの制御を行えるようになります。

日本で1年間に事故によって停電する時間は19分、アメリカは97分（2006年度実績／電気事業連合会調べ）というデータからもわかるように、日本の送配電送網は世界でもトップレベルの安定供給を誇り、世界一停電が少ないといわれています。そのためか、わが国ではスマートグリッドの導入にも積極的ではありませんでした。ところが、先の東日本大震災で電力がひっ迫し、首都圏は計画停電へ突入。これは、電力需要を正確・リアルタイムに把握するシステムが整っていなかったためです。

このスマートグリッドを実用化するための第一歩がスマートメーターの導入で、電力を「見える化」し、ピーク時でも電力の需要を調整することができるといわれています。アメリカはかつて、大規模な停電や電力危機を経験しており、その背景からスマートグリッドを推進してきました。日本でもスマートグリッドという考え方に、真剣に取り組む時が到来したのです。

濱園準一郎（株式会社イージスワン）

## ●公共交通運賃について

先日、所用で大宮駅まで往復した。往路は光が丘→練馬→池袋→大宮、復路は大宮→武蔵浦和→北朝霞（朝霞台）→成増の経路とした。往路は33.3km720円、復路は20.4km370円とおおよそ往路の半分で済み驚いてしまった。このことからいくつか考えた。

- 1) 行き先別に最寄り駅を変えると財布にも、遠くの駅まで歩くことになるので健康にもよい。
- 2) 鉄道運賃は、段階運賃で160-210-290-380円と上っていく。昔の出札方式の場合の運賃計算法と思える。現在なら運賃=15.5円×距離+60円（推定）で即座に計算、精算すべきと思う。
- 3) 公共交通運賃は出発駅と到着駅間の直線距離×賃率とするのが理想ではないか。事業者別や線形の具合で利用者の運賃負担が増えるのは公共交通としていがかが。
- 4) 欧米の一部の都市で採用されているようなゾーン制運賃方式を参考にして、事業者はもちろん、バス、鉄道といった交通機関間も統合した空間距離だけに依存する運賃制度を実現したいものだ。そうすればバスの利用も増えるし、都市圏内の都市間の経済的距離の歪みも是正されていくのではないだろうか。

矢島充郎（第一計画部）

## ●フィリピンの首都圏空港開発戦略

世界の大都市圏では、人口規模や経済活動の拡大、特に最近では格安航空会社（ローコストキャリア：LCC）の参入により航空需要が増大し、既存の空港では急増する航空需要に対処できなくなりつつある。同時にこれらの既存空港の多くは都市内の市街地に立地しているため、その拡張が容易ではないという課題がある。そのため、土地に余裕のある遠隔地に新空港を建設して全面的に移転するか、既存空港と役割を分担する体制を取るケースが多くなっている。

フィリピンのマニラ首都圏でも上記と同様の課題を抱えている。首都圏のほぼ中心部に位置するマニラ空港（ニノイ・アキノ国際空港）は、同国の国際線旅客の80%以上が集中し、加えて多くのジェネラルアビエーション（小型機）も運行しているため非常に混雑しており、既にピーク時の滑走路容量には余裕がなく、安全運航の確保の面からも問題が指摘されている。しかし、空港周辺は密集した市街地に取り囲まれ、滑走路の増設は困難な状況にある。一方で、同首都圏の北部に位置するクラーク空港（ディオスダド・マカパガル国際空港）は、滑走路容量に余裕があり拡張も可能である。現在はLCC、貨物、機材整備等の事業者が開しているのみである。同国の国際ゲートウェイ空港として位置付ける旨の方向

性が示されているものの、マニラ中心部から約100kmも離れているという立地もあり、将来的なマニラ空港との役割分担など明確な政策的枠組みの確定にまだ至っておらず、空港機能やアクセス交通のインフラ整備がまだ進んでいない。

我が国の国際協力機構（JICA）は、同国の要請を受けて首都圏の空港整備戦略の策定に係る調査を実施している。クラーク空港を将来的に最大限活用しなければならぬのは明らかであるが、特に首都圏の場合、国の玄関ともなるだけに、マニラ空港とどのような役割分担を図るのが適切なのか、アクセス交通をどう整備するか等、まさに重要な戦略の策定が行われているところである。

増島哲二（海外室）

---

発行責任者：代表取締役 庄山 高司  
事務局：株式会社アルメック 業務部  
東京都目黒区青葉台 1-19-14  
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210  
Eメール [hotnews@almec.co.jp](mailto:hotnews@almec.co.jp)  
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

---

Copyright 2011 ALMEC Corporation. All rights reserved.